

梅雨対策(野菜)

梅雨期の高温多湿な気候は、生長期の農作物に病気や害虫をもたらす原因となります。水管理を徹底してよりよい農作物作りを目指しましょう。

野菜

長雨による過度な水分は野菜の根の伸長をさまたげます。そうすると、茎や枝、葉といった地上部の大きさと地下の根の大きさのバランスがくずれ、病気にかかりやすくなります。多湿に弱いトマト、大根、ゴボウ、カボチャなどは特に排水に気をつけてください。また、作物の下葉や枯葉を取り除いたり、間引いたりして風通しや採光を図ってください。育てた野菜を雨の被害から守るためにも、しっかり梅雨対策をしましょう。

対策

①圃場の排水

圃場内に雨水が停滞し、畝間に水が溜まらないように排水溝を設け、排水対策を徹底しましょう。排水の悪い畑では高畝にすることも排水を良くする一つの方法です。逆に水分が少ない場合も、高畝は水分保持という点ですぐれています。



②土の飛散防止

激しい降雨によって土が飛び散り、葉や茎に付着すると病気になりやすくなります。マルチなどの資材や敷きわらで植物の根元を覆い、土壌中の菌が葉や茎に飛ばないように、土の飛沫を防ぎましょう。降雨により根が露出した場合には土寄せを行ってください。



③雨よけ栽培

ビニールなどを使った雨よけ栽培は、特にトマトに用いると病気の発生を抑えるだけでなく、食味を良くする効果もあります。また、覆っているビニールの採光を高めるため被覆資材の汚れは取り除くとともに、風通しをよくしてください。



梅雨対策(水稻・丹波黒大豆)

梅雨期の高温多湿な気候は、成長期の農作物に病気や害虫をもたらす原因となります。水管理を徹底してよりよい農作物作りを目指しましょう。

水稻

稲はこれから中干しの時期を迎えます。今後の水稻の健全育成のためにも必ず行いましょう。

中干しの目的は

- ①土の中に空気を入れて強い根を作る
 - ②無効分けつや過繁茂の防止
 - ③下位関節間の伸びすぎを抑えて倒伏を防止する
 - ④圃場内の管理作業がしやすくなる
- ことです。

中干し開始目安

中干しは、一株の茎数が20本程度になればすみやかに実施してください。



中干しの期間

期間の目安は4～10日とし、田表面に小さな亀裂が入る程度。干し過ぎて大きな亀裂が入ると根を傷めてしまうので注意しましょう。



中干しもやりすぎると生育に影響を与えるので、品質向上のためにも遅れないよう適期に、確実に中干しを行いましょう。

丹波黒大豆

梅雨時期の排水対策が今後の生育（収穫）に大きく影響を及ぼします。生育初期に排水管理をおろそかにすると湿害が起こり、茎疫病や黒根腐れ病等の病害、根の伸長停止などが発生しやすくなり、今後の生育に大きな影響を与えます。この時期は圃場に水を停滞させることなく、できるだけすみやかに排水するようにしてください。土を乾かすことが大切です。

対策

①溝をしっかりと通す

畝間に水が溜まると、根が酸素を吸収できず、根の伸長が抑えられてしまいます。過剰な水がすみやかに排水できるよう溝をしっかりと通しましょう。

②畝を高くする

排水の悪いところは高畝とし、周辺の水田から水の流入のないようにしてください。適度な水分を保ちながら乾燥状態となる高畝は、過湿、乾燥の両方に有効な対策です。

